CORE
Metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
Provided by Hiroshima University Institutional Repository

広島大学大学院教育学研究科紀要　第二部　第65号　2016　37－44

イギリス初等地理テキストブックにおける環境地理学習の特質

由井義通・村田　翔[1]・阪上弘彬
（2016年10月６日受理）

Environmental Study in Elementary Geography in the United Kingdom by Analysis of Geographical School's Textbook

Yoshimichi Yui, Sho Murata[1] and Hiroaki Sakaue

Abstract: Environmental education in elementary school in Japan is defined as "Moral Education" by the national curriculum. However, environmental education is one of the most important contents in geographical education. This study aims to clarify the contents in elementary geography in the United Kingdom by analyzing the elementary geographical textbook, in order to develop the basic environmental geographical education. And also we want to know how to educate environmental study in elementary school and how to improve it, from the view point of ESD ("Education for Sustainable Development"). Analyzed the elementary geographical textbooks, we find that it is effective for environmental education in UK to use various activities. All geographical textbooks foster problem solving abilities by using geographical activities and rearing scientific thinking.

Key words: environmental study, elementary school, Geography, textbook, UK
キーワード：環境学習，初等教育，地理，テキスト，イギリス

１．研究の背景と意義

平成20年告示の小学校学習指導要領における環境教育の位置づけをみると，「第１章総則　第１教育課程編成の一般方針」において，「道徳教育は，教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，人間尊重の精神と生命に対する畏（い）敬の念を家庭，学校，その他社会における具体的な生活の中に生かし，豊かな心をもち，伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し，個性豊かな文化の創造を図るとともに，公共の精神を尊び，民主的な社会及び国家の発展に努め，他国を尊重し，国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓（ひら）く主体性のある日本人を育成するため，その基盤としての道徳性を養うことを目標とする」と記されている。これは，文部科学省による現行学習指導要領の改正点を示した「環境教育に関わる内容の比較」においても紹介されている（http://www.mext.go.jp/a_menu/Shotou/kankyou/__icsFiles/afieldfile/2013/01/22/1329192_1.pdf）。つまり，環境教育は小学校学習指導要領では道徳教育の一部として位置付けられており，単なる知識ではなく，環境保全に貢献する態度の育成を目標としている。環境倫理的な内容が弱いため，多少の物足りなさを感じるものの，環境保全に貢献するという道徳的な態度目標が掲げられている点は興味深い。

また，現行の小学校学習指導要領では，社会科，理科，生活科，家庭科，体育科，道徳，総合的な学習の時間，特別活動において環境教育の内容が改訂前よりも具体的に記述されている。社会科では第3，4学年の

[1]広島大学大学院教育学研究科博士課程前期

「内容」において，「(3) 地域の人々の生活にとって必要な飲料水，電気，ガスの確保や廃棄物の処理について，次のことを見学，調査したり資料を活用したりして調べ，これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。」とあり，「内容の取扱い」で下記のように具体化されている。

ア 「飲料水，電気，ガス」については，それらの中から選択して取り上げ，節水や節電などの資源の有効な利用についても扱うこと。
イ 「廃棄物の処理」については，ごみ，下水のいずれかを選択して取り上げ，廃棄物を資源として活用していることについても扱うこと。

さらに社会科第5学年の「目標」では，「(1) 我が国の国土の様子，国土の環境と国民生活との関連について理解できるようにし，環境の保全や自然災害の防止の重要性について関心を深め，国土に対する愛情を育てるようにする。」と明記され，「内容」では，「(1) 我が国の国土の自然などの様子について，次のことを地図や地球儀，資料などを活用して調べ，国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。」と記され，具体的には下記の2点が挙げられている。

ウ　公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ
エ　国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止

上記の「内容」を受けて，「内容の取扱い」では，次のように具体化されている。

ウ　ウについては，大気の汚染，水質の汚濁などの中から具体的事例を選択して取り上げること。
エ　エについては，我が国の国土保全等の観点から扱うようにし，森林資源の育成や保護に従事している人々の工夫や努力及び環境保全のための国民一人一人の協力の必要性に気付くよう配慮すること。

以上のように，現行の小学校学習指導要領社会科では，環境教育によって育成される能力の目標などが具体化されていないものの，内容面では環境教育に関する記載がいくらか増えている。

環境教育への取り組みは，2002年のヨハネスブルグ・サミットによって提言された「持続可能な開発のための教育（ESD)」からより一層の積極的な取り組みとなった。その後，日本政府主導によって「我が国における国連 ESD の10年実施計画」(2006) も作成された。わが国は ESD の多様な取り組みの中でも環境教育の積極的取り組みを進め，ESD の普及や啓蒙活動を行っている。その結果，2008年の中央教育審議会において ESD の重要性が初めて明記され，それを踏まえて作成された教育振興基本計画においても「持続発展教育」という形で明記された。また，現行学習指導要領においても ESD の視点が盛り込まれ，ESD が学校現場への普及が図られてきている。

しかし，現状の学校現場においては，ESD の目的や意義などを理解している教員は必ずしも多くはない。文部科学省は，環境教育の重要性について，深刻化する地球温暖化や自然破壊など環境問題への対応が人類の生存と繁栄にとって緊急かつ重要な課題ととらえ，豊かな自然環境を守り，私たちの子孫に引き継いでいくためには，エネルギーの効率的な利用など環境への負荷が少なく持続可能な社会を構築することの大切さを訴え，そのためには，国民が様々な機会を通じて環境問題について学習し，自主的・積極的に環境保全活動に取り組んでいくことが重要であるとしている（http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kankyou/)。しかしながら，教育現場では環境教育と ESD との関係について十分な理解を得ているとは言い難い。泉（2009）は，知識や概念を習得することにウエイトが置かれているため，ESD は理念的なレベルにとどまっていると指摘している。また，永田（2014）は，ESD 像が多種多様で従来の実践との違いが曖昧であるために，一部の先進的な取り組みを除いて ESD の視点を導入した授業開発は進んでいないと論じている。この指摘から明らかなように，日本における ESD の導入にはまだまだ課題が多い。これを踏まえて，ESD の先進国の1つであるイギリスの教育に注目したい。

イギリスでは，ナショナル・カリキュラム[1]を通じた社会や持続可能性に関する学習の展開がなされてきた。これらは，日本の研究者によって研究がなされており，志村（2008）では，イギリスにおける初等地理の授業を現地調査から授業実践の実態を報告している。また，佐藤（2010）によると，ナショナル・カリキュラムの Key stage 1～3では，地理科で持続可能な開発に触れることを必須としている。このようにイギリスでは，持続可能な開発を授業の中に組み込む姿勢が表れている[2]。

しかし，研究の蓄積が多い中等教育に比べると，初等段階の地理教育での環境教育については研究が少な

表1 『PRIMARY GEOGRAPHY』の内容一覧

Key stage	Text book	Human Geography	Physical Geography	Environmental Geography	Topography
2	Pupil book 6 Issues	Planing Issue Transpost	Restress Earth Drinking Water Local Weather	Conversation	Wales Greece North America Africa
	Pupil book 5 Changes	Cities Jobs	Sea and ocean Wearing away the land The season	Pollution	England Europe South America Asia
	Pupil book 4 Movement	Towns Food and Shops	Coasts Rivers Weather patterns	Caring for towns	Northern Ireland Germany North America Asia
	Pupil book 3 Investigation	Villeages Travel	Landscapes Water around us Weather worldwide	Caring for countrysides	Scotland France South America Asia
1	Pupil book 1 and 2 World around us	Earth in space Planet Earth Weather and seasons	Local area Maps and plans	Different environments	The UK

『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil book 1 and 2』,『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil book 3』
『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil book 4』,『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil book 5』
『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil book 6』より筆者作成

く，地理教育における環境教育の基礎的内容については検討の余地がある。

ESDは，世界における地球規模の課題に対して解決につながるような価値観や行動を生み出すことを目標としており，既存の学習内容にESDの視点によってとらえ直すことが求められている。既存の学習内容としては，国際理解学習やエネルギー学習等が挙げられているが[3]，特に扱われる問題が環境変化や気候変動・生物多様性といった環境に関する学習である。世界的に地球温暖化や大気汚染等の問題が叫ばれ，学校現場においても扱われ続けているテーマの一つである。しかしながら，学校現場では単にそのテーマを扱うだけや興味関心を抱かせるだけにとどまっている場合も多く，岸本・佐藤（2010，p.58）は「環境学習を環境への単なる興味づけにとどまらせることなく，具体的な行動にまで踏み込んだ継続性，発展性のある「質の高い環境学習」へ改善することが求められている」と指摘する。このように日本の環境学習においても課題が多い。

以上のことから，本研究ではイギリス初等地理教育における環境学習の目標や内容構成，育成しようとする能力等についてテキストの分析を通じて明らかにし，環境教育の基礎的学習内容を解明することを目的とする。特に，環境に対する多面的な基礎的知識を習得し，将来に渡る環境保全への態度形成を目的としたESDについては，わが国の環境教育の重要な課題と考えており，小学校低学年段階から始められているイギリスの地理教育における環境教育から得るものが大きいと考える。また，研究結果から日本の初等社会科における地理的内容の学習にESDを踏まえた授業の観点や取り組みの視点を示し，環境地理学習の改善へと繋げることも重要と考える。そこで，本研究ではイギリス初等教育で使用されている地理テキストを対象とし，その全体構成や環境地理に関する単元の内容分析を試みた。

2．イギリスの初等地理テキストの特徴

本研究で分析したテキストは，イギリス初等教育の地理において一般的に使用されているCollins社の『PRIMARY GEOGRAPHY』である。このテキストは『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil Book 1 and 2』から『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil Book 6』までの5巻構成となっている。各テキストの内容一覧は表1の通りである。表1に示すように，学習内容は，「Human Geography（人文地理）」，「Physical Geography（自然地理）」，「Environment Geography（環境地理）」「Topography（地誌）」の4領域から構成されている。Key stage 1（5-7歳）で使用されるテキストは『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil Book 1 and 2』の1冊に取りまとめられ，Key stage 2（7-11歳） 以降のテキストは『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil Book 3』から『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil Book 6』となっている。各巻における内容構成は，自然地理学，人文地理学の各分野において学習内容が組み立てられており，Key stage 2対応のテキストに関しては，単元の数が統一されている。

Key stage 1の『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil

表2　Pupil book 1 and 2の目次一覧

単元	小単元
Earth in space 宇宙の中の地球	Earth, sun and moon　地球，太陽そして月
	The planets　惑星
	Day and night　昼と夜
	Land and sea　陸と海
Planet Earth 惑星地球	A living planet　生きている惑星
	The shape of the land　大地の形
	Volcanoes　火山
	World wonders　世界の驚き
Weather and seasons 天気と季節	Experiencing the Weather　天気を体験
	Different types of weather　多様な天気
	Extreme weather　極端な天気
	The seasons　季節
	Going round the sun　太陽を回る
Local areas それぞれの地域	Shelter　住居
	Houses around the world　世界中の住居
	Living in a village　村での生活
	Exploing local streets　通りの探検
	Under your feet　地面
Maps and plans 地図と計画	Maps and stories　地図と物語
	Treasure island　宝の島
	Different plans　異なる計画
	The view from above　上空からの眺め
The UK イギリス	UK countries　イギリスの国
	Uk mountains and rivers　イギリスの山と川
Different environments 多様な環境	Living in the arctic　北極圏の生活
	Living in the rainforest　熱帯雨林の生活
	Living in the desert　砂漠の生活
	Animals around the world　世界中の動物
World maps 世界地図	World continents　世界の大陸
	World countries　世界の国々

『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil book 1 and 2』より筆者作成

Book 1 and 2』の特徴としては文章が物語仕立てになっており，絵や写真がページの大半を占めている。同書の目次は表2に示すようになっており，単元ごとに2～5ページ程度設けられているが，系統性をもたせている単元もあれば，同じ分野内における様々な話題をトピックとしてとりあげた内容構成となっている単元もみられる。この点から本テキストでは，発達段階を考慮して単元内で系統的な学習を進めるより地理に対する興味関心を抱かせるような話題提供を行っている側面が大きい。各ページに設定されている学習活動（アクティビティ）についても簡単な話し合いや話題提供が中心となっていることから，児童の発達段階を考慮して，学習内容の体系や知識伝達や習得よりも地理的好奇心の刺激（興味関心）を抱かせることをねらいとしている。

次に Key stage 2の『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil Book 3』以降の内容の特徴としては，テキスト自体の文章量が増加している。学年があがるにつれて，概念的知識や地理的スキルの獲得が明確化され，説明文と資料で用いられる文章などが増えているためである。また，学習活動の内容をみると，議論を促したり地図を積極的に使用したりするような活動が設定されており，学習内容がより高度化されていることが伺える。特に日本の初等社会科においては扱われない都市開発の問題についてある都市における建造物の存続や都市開発の方向性の是非について議論を行うなど，日本と比較しても高度な学習内容が設定されている[4]。

3．環境地理単元の特徴

地理学では，福岡（1992）が環境地理学について「環境を狭義に環境破壊とか環境汚染と解して，そういう環境問題を扱う地理学」（p.240）と定義し，環境地理学の研究対象を自然環境の問題として狭義に捉えている。しかし，環境問題は自然環境だけではなく，人間社会との相互関係によっても影響されるものである。淺野（2015）でも指摘されているように，環境問題は人間活動に起因する問題であり，社会に起因する問題でもある。

本研究では各テキストの環境地理に関する単元を取り上げ，それぞれの内容や学習活動について分析を行う。分析対象は各テキストの単元の一つである「Environment Geography」に関する単元である。なお，それぞれのテキストにおける環境地理に関する単元とその概要は，表3に示した。

表3から単元構成をみると，環境破壊や南極での環境保護といった自然的話題もあれば建物の保護やエネルギー問題といった人間生活によって大きく左右される問題も単元の中に入っていることが分かる。すなわち，寛容を捉える際には自然的側面だけではなく，社会的側面からも捉えるようにしていることが伺える。次に，各テキストの内容構成について述べる。まず，Key stage 1の『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil Book 1 and 2』では，多様な環境というテーマから分かるように気候条件の異なる環境の事例として北極圏・熱帯雨林・砂漠での生活風景と世界各地に生息する野生生物の分布について学習している。これらの内容については，児童の発達段階を考慮して，興味を引くような話題提供および地理的好奇心を抱かせることに重点が置かれたものになっている。Key stage 2の『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil Book 3』をみると，動植物の生息地についてどういう環境に生息するのかを学び，国立公園での自然保護について事例学習をする。さらに自然保護区でどういう対策を行うべきか，また学習者の周辺の環境をどう良くしていくべきなのかを検討している。『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil Book 4』では，都市の建物について古いものを新しいものへの更新と古いものを保存することの対極の考え方について学び，事例学習としてある都市での都市

表3　環境地理に関する単元一覧と内容

Textbook	テーマ	単元名	概要
Pupil book 1and 2	Different environments 多様な環境	Living in the arctic	北極圏の暮らし
		Living in the rainforest	熱帯雨林の暮らし
		Living in the desert	砂漠での暮らし
		Animals around the world	世界の動物の生息地を地図学習する
Pupil book 3	Environment：Caring for the countryside 地方の保全	Wildlife around us	動植物の生息地について
		Protecting Wildlife	国立公園における野生生物の保護について
		Inproving our surroundings	自然保護区における対策と自分たちの周辺環境の向上
Pupil book 4	Caring for towns 町の保全	Old and new buildings	建物の保護と開発
		Making improvements	都市の再開発の一例
		Comparing places	開発された場所の比較検討
Pupil book 5	Pollution 公害	Damaged the environment	環境破壊の概要とその要因
		?Green living'	環境破壊への対策
		Exploring cleam energy	エネルギー問題と地域調査
Pupil book 6	Conversation 保全	Threatened wildlife	野生生物の保護
		Antarctica	南極での生活と環境保護
		Conservation projects	環境保護への取り組み

『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil book 1 and 2』,『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil book 3』
『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil book 4』,『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil book 5』
『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil book 6』より筆者作成

改良についてどんな意見が出ているのかを理解し，実際に都市開発によって改良された街の景観を比較し，どこが良かったのかを検討させている。『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil Book 5』では，より世界的課題として大気汚染や水質汚濁等の環境問題をその概要と発生する要因について学ぶ。そして，学習者自身が汚染を減らすためにどのような行動が出来るのかを考えさせている。最後のページでは，環境問題に関連してエネルギー問題についてこれまでの火力発電における課題を学ぶとともに地域調査を実施し，自分が居住する地域での環境問題を取り上げる活動をしている。Key stage 2最終段階の『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil Book 6』では，絶滅危惧に瀕している野生生物について学習し，絶滅危惧種も生息している南極大陸がどれほど大切なのか実際に世界の国々が上陸していることも交えながら学習する。単元の最後では，環境を守る「保護プロジェクト」と題して，人々がどのような行動を取り，環境を保つためにどのようなことをしているかを身近な食材から学ぶようになっている。以上の単元構成から，環境地理の学習としては，①環境に関する事象の概要を把握する②扱う事象に対する関連した事例学習③学習者の身近な場所で起こりうる状況を取り上げた学習を行うという流れになっているということが明らかとなった。

次に各単元に設定されている学習活動（アクティビティ）について検討する。表4は『PRIMARY GEOGRAPHY』におけるアクティビティをまとめたものである。Key stage 1では4つの小単元のいずれにおいても，学習者が容易に答えられるような問題か簡単な話し合いの議題を提案している。このことから，世界の様々な環境やその多様性について知識を伝達したり課題を考察させたりするより，地理的事象に対して興味関心を抱かせることに重点が置かれていると解釈出来る。これは，既述のようにこのテキストの特徴とも合致している。

一方，Key stage 2のアクティビティは大きく異なり，「Discussion」（討論），「Mapwork」（地図作業），「Investigation」（調査）の三つが設けられている。「Discussion」は通常授業等で用いられる問いを出す役割をし，「Investigation」は問いというよりもクラスやグループでの調べ学習の活動を設定しており，学習を通じて得た情報を発信するような活動もみられる。そして，「Mapwork」は地図を用いた学習活動となっているが，単なる地図を使うだけではなく，学習者が実際に作図したものを使用したり地域で得られた情報を図表で示したりする活動がみられる（例：あなたの汚染調査で研究した地域について地図か計画書を作ろう）。このような地図を使うように学習活動を設定している背景にはやはりナショナル・カリキュラムの方針が大きく反映されている。ナショナル・カリキュラムにおける学ぶべき内容の一つに「地理的技能」が設定されており，具体的には地図を描いたり使ったりすること，地域における自然的人文的特徴を野外調査で明らかにすること等が明記されている。このように地理的技能習得に向けた学習活動の設定が明確に行われている。

そして，各アクティビティについて特徴を検討すると，大きく4つのアクティビティに分類できる。第1は事実認識や知識伝達を行うアクティビティである。例としては「リサイクルとは何ですか」といった単純な事実確認にとどまっている場合が多い。第2は事象に対してその理由や要因を考えるアクティビティであ

表4　Collins 社『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil book』の地理教科書におけるアクティビティ

text-book	テーマ	単元名	アクティビティ（■ Discussion ▲ Mapwork ● Investigation）
Pupil book 1 and 2	多様な環境	北極圏の生活	北極圏に行ってみたいと思いますか
		熱帯雨林の生活	熱帯雨林に関して知っている言葉について考えてみましょう
		砂漠の生活	写真から分かる情報も付け加えて，毛糸の冒険の話を書き直してみましょう
		世界中の動物	(a) 熱帯雨林（b）砂漠（c）極地域，それぞれの場所に住んでいる生き物はどれでしょう
Pupil book 3	地域に関心を持つ	私たちの周りの野生生物	■家を探しているすべての生物はどこで古びた壁の中で住む場所を見つけるだろうか ■何が古びた壁を良い自然の生息地にするのか ■ちょっとした自然になっている校庭をいくつかの部分を考え付くか ▲あなたの校庭の地図記号に色をつけなさい。野生生物に良い場所には緑を，野生生物が生き残るのが難しい場所には黄色を使いなさい。 ●あなたの学校の近くの通りの中の前庭を調査しなさい。それぞれの庭が主に草や植物や花があるか，もしくは概してレンガや岩やコンクリートにおおわれているかどうかを判断しなさい。あなたの結果を棒グラフに表しなさい。
		野生生物を保護する	■なぜ世界中の環境を保護することが重要なのか。 ■どの保護プロジェクトが最も重要だと思うか。 ■野生生物を保護するためには何ができるか。 ▲あなたの最も近い国立公園や保護地域の地図を作りなさい。 ●人々が野生生物の世話をしたくなるためのポスターを考案しなさい。
		私たちの環境を向上させる	■なぜ私たちは自然保護区を必要としているか。 ■管理人は何の仕事をしているか。 ■もしアンドリューが保護区の世話をやめると何が起こるだろうか。 ▲あなたの校庭案を書くもしくは，あなた自身の公園案を設計する ●あなたの校庭に短い自然遊歩道を考案する
Pupil book 4	街の保護	古い建物・新しい建物	■なぜ集合住宅は取り壊されているのでしょうか ■33ページの写真の建物はなぜ保存されていると思いますか ■地域で最も古い建物はなんでしょうか ▲どうしたら風車を家の三階に変えることが出来るか設計図を書いてみましょう ●指定建造物になっている地域の建物を見つけてみよう。なぜその建物が特別なのかわかるように，訪れ準備をしましょう
		改良する	■ダンカン・ブラウンさんは何をしていますか ■コクラン通りをより良くするための変更をあなたはどう思いますか ■他にはどのような改造がなされるべきですか ▲学校の近くで改善されるかもしれないと考えられる地域を見つけてみましょう。計画を立てて，考えをノートに書きましょう ●それぞれの改善は環境をどう良くしますか。図と一緒に短い報告を書いてみましょう
		場所を比較する	■あなたが建築物や通りを評価する方法は何ですか ■A町とB町なら，あなたはどちらが最優秀管理町賞を勝ち取ると思いますか ■もしあなたの学校が競争に参加したら，一番の特徴はどこでしょうか ▲あなたの地域の新しく変わったか改善されたものの写真を撮影しましょう。あなたの作業をクラス展示として地域の道路の周辺を周りに紹介しましょう ●学校を調査しましょう。あなたがすきなところ，改善した方が良いところについて短い報告を作成しましょう
Pupil book 5	公害	環境の破壊	■何が環境汚染を起こすか ■すべての汚染が人間によってもたらされたか ■異なった汚染類型を考えよう。どれが最も深刻だと思うか ▲あなたの学校あるいは周辺地域におけるきれいな場所と汚い場所を地図で表現しよう ●あなたの家あるいはクラスで六つのものを選ぼう。分解されるまでにどれくらいかかるかを記録して図表で示そう
		環境に優しい生活	■リサイクルとはどのような意味か ■なぜ人々が習慣を変えるにはない時間が必要なのか ■あなたはどうやってエネルギーを節約できるか ●あなたの学校のために，「浪費と汚染」の方策を10点考えよう ▲あなたの学校における電源がついたままの電気と機械の調査を５日間行おう。分かったことを概要図で示そう
		きれいなエネルギーの調査	■発電所とはなにか ■ Drax はなぜそんなにも高い煙突が必要なのか ■ Drax はイギリス電力の7％ぐらいを生み出す ▲あなたの汚染調査で研究した地域について地図か計画書を作ろう ●あなたの学校周辺における汚染問題を対象にして，似たような調査を行おう
Pupil book 6	保護	絶滅危惧に瀕する野生動物	■野生生物にとって，一番深刻な脅威は何ですか ■今から50年でどれくらいの数の動植物がのこっているかもしれないでしょうか ■動植物が絶滅したら問題ですか ●危惧種（植物か動物）を一つ選んで詳しく調査してください。小レポートを書いて，写真を付けてください ▲虎や亀のような絶滅に瀕する動物に関する小さな絵を描いてください。それらを大きな世界地図上にピンでとめて，クラスで展示してください
		南極大陸	■なぜ南極大陸が特別なものなのですか ■南極大陸の領土を主張する7つの国はどこですか ■南極大陸は世界公園であるべきだと思いますか ●危惧種（植物か動物）を一つ選んで詳しく調査してください小レポートを書いて，写真を付けてください
		保護プロジェクト	■ドーセットヒースランドはどうして危機に瀕していたのですか ■なぜ特別だったのですか ■他に知っている保護プロジェクトはありませんか ●有機農業のメリットとデメリットを示すコマ漫画を描きなさい ▲あなたの学校もしくは身近な地域の地図の中に，野生動物のために改善できる方法を示す注を加えなさい

『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil book 1 and 2』，『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil book 3』，『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil book 4』『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil book 5』，『PRIMARY GEOGRAPHY Pupil book 6』より筆者作成

る。具体的には「なぜ集合住宅は取り壊されているのでしょうか」「なぜ習慣を変えるには時間が必要なのか」といった事象や発生した現象に対してその理由や要因を考えさせ言葉で表すものであり，学習者にとっては学習を進めていけば答えるのは容易である。第3は価値観の形成や選択を図るアクティビティである。具体的には「あなたはどうやって節約をすることができるか」「通りをよくするための計画をあなたはどう思いますか」が挙げられる。通りをよくする計画を客観的に見てどう考えるかというように学習者各々に価値観を作り出すアクティビティとなっている。第4は情報発信・改善案などの意見表明となっているアクティビティである。具体的には「身近な地域の中で野生生物のために改善できる方法を示そう」「あなたの学校のために「浪費と汚染」への方策を考えよう」があげられる。学習者自身で学んだことや得た情報を地図にしたり，実現できるような対策を練ったりすることによって単に学習を進め，知識を得るだけではなくそれらを発信することによってより定着度を高めることが期待される。

上記の第3のアクティビティはこれまで日本の学校ではあまり見られなかった視点をもたせたものであり，第4のアクティビティも単なる発表ではなく，より具体的に実施できるように設定されていることが大きな特徴である。特に後半の2つについてはESDが目指してきた「育みたい力」[5]である代替案の提案や多面的な考察力を育成する上でも非常に有効であると考える。

4．考察

環境教育は小学校学習指導要領総則では環境保全に貢献する態度の育成を目標として道徳教育の中に位置づけられ，各教科との関連での取り組みとなっている。それに対して，今回分析したイギリスの初等地理テキストでは，地理的見方や考え方，あるいは多様な地域スケールで分析する地理学の科学的スキルを育成することによって環境問題に対する課題克服の能力や態度の育成が図られている。イギリスの初等地理教育のテキストを分析した結果，以下のことが明らかとなった。

第1は「Think globally, Act locally」の考え方が強く反映された単元展開である。これは，現代社会の課題を自らの問題として捉え，身近な所から取り組み，課題解決につながる価値観や行動を生み出すというESDの考え方に合致している。具体的には，ある事情に対して概念的知識をつかむ学習とそれに関する具体的事例を通して地理学の科学的手法を学習する。そして，最後の段階で学習者の身近な地域で起きた問題に対してどのように行動することがいいのかを検討させている。一連の流れにおいて，世界的な課題にも触れつつ，周辺で同様の問題が起きた場合にどう対処するのかを身につけさせていることが明らかとなった。

第2は，多様な地域スケールや観点から環境を捉える学習を進めていることである。一つの単元内で話題となっている世界各地の環境に関する問題を取り上げたうえで，最後には学習者の周辺環境における学習へ結びつけている点から，様々な尺度から環境及びそれに付随する課題を捉えようとしている。また，事象に対する考えを学ぶ際には多くの立場からの意見を知ることが出来るような構成となっており，多面的な思考力を養うことが出来る。

第3は，アクティビティの学習活動によって知識獲得と地理的技能の習得に向けた活動や事象に際して発生する価値観の検討やその形成を図る活動が設定されている（例えば，意見の調整，行動への意識づけなど）。アクティビティは，知識の伝達や事実の要因をテキスト内から確認するだけではなく，事象に対する価値観の形成や選択・獲得した知識を発信するなど，ESDの中で育みたい能力を高められるような学習活動が設定されていた。全てのテキストを通じて同様の活動が設定されており，継続した学習活動が展開されていることが伺える。ただし，初等教育であるがゆえに発達段階の違いには留意したい。

最後に，いくつかの残された研究課題がある。今回の分析対象はCollins社の初等地理テキストのみであり，イギリス初等地理教育で使用される複数のテキストとの比較検討を行う必要がある。また，発達段階の異なるKey stage 3の中等教育における環境地理学習および関係する単元についても，初等教育との連続性や発達段階による環境教育の展開に関する研究と，実際の学校現場での環境教育の授業分析も検討課題である。

【注】

1）Lambert and Hopkin（2014）によると，1991年に刊行されて以降，1995年，1999年，2007年，2014年に改訂されている。ただし，2007年に関してはKey stage 3のみが改訂されている。

2）これまで，ナショナル・カリキュラムでは持続可能性という文言が明記されていたが，最新の2014年版ナショナル・カリキュラムでは，「Sustainable」という用語が原則として使われていない。

3）http://www.esd-jpnatcom.jp/about/index.html 参

照（閲覧日：2016/09/19）

4）詳しい内容やテキストの概要については阪上他（2016）参照。

5）中山（2011）によると①問題や現象の背景の理解②多面的かつ総合的なものの見方を重視した体系的な思考力③批判力を重視した代替案の思考力④データや情報を分析する能力⑤コミュニケーション能力の5つである。

【参考文献】

浅野敏久（2015）:13. 環境の地理 .『地理学基礎シリーズ1　地理学概説〔第2版〕』，朝倉書店，pp130-134.

泉貴久（2009）：イギリスの中等教育用地理教科書にみる ESD の概念―日本の地理教育における ESD 実施に向けての課題と展望―．専修人文論集 , 84, pp353-374.

岸本清明・佐藤裕司（2011）：兵庫県内小学校における環境学習の現状と障壁―ESD 推進のための要件―．　環境教育，20（1）, pp.58-66.

阪上弘彬・村田翔・由井義通・杉谷真理子・佟亜斎娜・中村勇介・橋本訓典・今井貴秀・氏原秀・兒玉泰輔・茂松郁弥・竹下紘平・陶子・潘意涵・山本稜・横川知司・吉川友則・劉思純（2016）：小学校における地理的内容の展開とその特質―イギリス初等地理テキストブック Collins Primary Geography の分析から―．広島大学大学院教育学研究科紀要，第二部，65（印刷中）.

佐藤真久（2010）：第Ⅲ部　ESD に関する外国の状況　英国におけるサステイナブル・スクールの取組 .『学校における持続可能な発展のための教育（ESD）に関する研究〔中間報告書〕』，国立教育政策研究所，pp.123-136.

志村喬（2008）：イギリスにおける初等地理授業実践の実態―現地調査からの知見―．上越教育大学研究紀要，27，pp195-204.

中山修一（2011）：理論編　第2章地理的 ESD 教材開発の目標，内容，方法 .『持続可能な社会と地理教育実践』，古今書院，pp10-15.

永田成文（2014）：日本における ESD 推進の現状と課題 .『社会科 navi（小・中学校　社会）』，日本文教出版，pp2-5.

福岡義隆（1992）：環境地理学の立場 . 日本生気象学会雑誌，29（4），pp239-245.

Stephen Scoffham・Colin Bridge (2014):『Primary Geography-Collins Primary Geography』Pupil Book 1 and 2～6.

David Lambert・John Hopkin (2014): A possibilist analysis of the geography national curriculum in England. International Research in Geographical and Environmental Education, 23(1), pp.64-78.